

子どもの味方 子どもの見方

古田足日の仕事から考える

ふるたたるひ
古田足日が亡くなって、来年で10年になります。作家として、また、評論家として児童文学に多大な足跡を残した古田は、大変な読書家でもありました。2020年、自宅に残された直筆原稿等が神奈川近代文学館に、そして、児童書を含む蔵書約3万3千点が白梅学園に遺贈されました。以降、白梅学園大学を中心としたプロジェクトチームは科研費の助成も受け遺贈資料の整理と研究を進めています。遺贈資料から改めて見えてくるのは、古田足日が「子ども」を思想の根本に据えていたこと、そして、常に子どもを見る目を問い続けていたということです。子どもの味方でありたいと思っている方々、子どもの見方を鍛えたいと思っている方々の多くのご参加をお待ちしております。

報告 「古田足日研究プロジェクトの“これまで”と“これから”」

————— 仲本美央 (白梅学園大学子ども学部・同大学院子ども学研究科教授)

「古田足日と国語教科書」

————— 鬼頭七美 (白梅学園大学子ども学部准教授)

「古田足日が生きていたら、ウクライナ情勢をどう語っていたらう」

————— 西山利佳 (青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授)

「〈方法化された誠実〉を追って」

————— 藤田のぼる (児童文学評論家・作家、日本児童文学者協会理事長)

コメンテーター 宮川健郎 (大阪国際児童文学振興財団理事長、武蔵野大学名誉教授、(公財)神奈川文学振興会評議員)
司会 佐藤宗子 (千葉大学名誉教授、(公財)神奈川文学振興会理事)

日時 | 2023年11月25日(土) 13時30分開始 (13時開場)

*終了は16時ごろを予定しています。

会場 | 神奈川近代文学館 (〒231-0862 横浜市中区山手町110)
tel.045-622-6666
展示館2階ホール (定員220名・全席自由)

申込み方法は
裏面をご覧ください。

古田足日さんについて



古田足日 (1927 - 2014)
撮影・伊藤英治

1927年11月29日、愛媛県宇摩郡川之江町（現四国中央市）生まれ。2014年6月8日没。児童文学作家、評論家。1953年、早大童話会にて鳥越信、山中恒らと共に「少年文学」の旗の下に!」を発表し、評論と創作の双方から現代児童文学を牽引する。画家田畑精一との共作絵本『おいしいれのぼうけん』（1974年、童心社）は2012年に累計200万部を突破。1997年度から2001年度まで日本児童文学者協会会長を務める。『全集 古田足日子どもの本』全13巻+別巻1（1993年、童心社）ほか。追悼文集『古田足日さんからのバトン』（2015年、かもがわ出版）からは、古田の仕事の幅の広さを知ることができる。



『おいしいれのぼうけん』
古田足日・田畑精一作 童心社

登壇者プロフィール

仲本美央（なかもと・みお）——白梅学園大学子ども学部・同大学院子ども学研究科教授。専門領域は保育学・幼児教育学。保育現場や家庭において絵本や本を読みあうことが子どもの育ちにどのような影響を与え、共に読みあう大人はどのような役割が必要なのかについて研究している。主な著書に『絵本から広がる遊びの世界 読みあう絵本』（2017年、風鳴舎）等。

鬼頭七美（きとう・なみ）——白梅学園大学子ども学部准教授。専門領域は日本近代文学。明治時代に家庭で読むにふさわしい小説として提唱された家庭小説について主に研究している。子ども向けの読みものや現代の教科書に載った名作などを取り上げる授業を担当している。主な著書に『「家庭小説」と読者たち—ジャンル形成・メディア・ジェンダー—』（2013年、翰林書房）。

西山利佳（にしやま・りか）——青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授。専門領域は児童文学。児童文学や絵本を通して平和を考える授業などを担当している。古田と共に編集した本に『わたしたちのアジア・太平洋戦争』全3巻（2004年、童心社）などがある。評論集『共感の現場検証』（2011年、くろしお出版）。

藤田のぼる（ふじた・のぼる）——児童文学評論家・作家、日本児童文学者協会理事長。学生時代に古田足日の影響を受け、児童文学の評論・創作活動を開始。古田の主な活動拠点だった日本児童文学者協会でも長く事務局長を務め、活動を共にした。主な著書に、『児童文学に今を問う』（1990年、教育出版センター）、『児童文学への3つの質問』（2001年、てらいんく）、創作作品に『みんなの家出』（2013年、福音館書店）など。

◆コメンテーター

宮川健郎（みやかわ・たけお）——大阪国際児童文学振興財団理事長。武蔵野大学名誉教授。専門領域は日本児童文学。著書に『現代児童文学の語るもの』（1996年、NHKブックス）など。田畑精一、西山利佳、藤田のぼるとともに『全集 古田足日子どもの本』の編集協力をつとめた。

◆司会

佐藤宗子（さとう・もとこ）——千葉大学名誉教授。専門領域は児童文学、比較文学。日本の児童文学における翻訳・再話や「現代児童文学」をめぐる問題などを追究。最近刊に『現代日本子ども読書史図鑑』（佐藤宗子・久米依子編、2023年、柊風舎）。

参加申込み方法

お電話（045-622-6666）または
ホームページの申込フォーム（右の
QRコード）で、お名前・電話番号・
参加人数をお知らせください。



予告

2024年夏、神奈川近代文学館で
「没後10年 古田足日展（仮称）」開催！

横浜・山手 港の見える丘公園内 Kanagawa Museum of Modern Literature

県立神奈川近代文学館

〒231-0862
横浜市中区山手町110
TEL 045-622-6666
<https://www.kanabun.or.jp>

ACCESS GUIDE

※駐車場がありませんので、公共の交通機関等をご利用ください。

〈東急東横線直通・みなとみらい線〉

元町・中華街駅下車 6番出口（アメリカ山公園口）から徒歩10分

〈バス〉いずれも「港の見える丘公園前」下車、徒歩3分

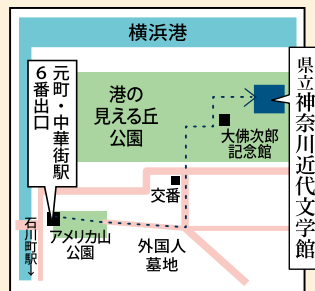
・神奈川中央交通バス⑪系：桜木町駅～保土ヶ谷駅

・横浜市営バス②⑩系：桜木町駅～山手駅

・観光スポット周遊バス「あかいづつ」

〈JR根岸線〉

石川町駅下車 元町口（南口）から徒歩20分



没後30年 井伏鱒二展 アチラコチラデブンガクカタル

2023年9月30日[土]～11月26日[日]

開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）／休館日：月曜日